

## 【戸塚区】令和 7 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 6 月 11 日 14 時 30 分 ~ 16 時 15 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座長】大和田あきお議員  【議員：4名】山浦英太議員、伏見幸枝議員  中島光徳議員、坂本勝司議員</p> <p>【戸塚区：24名】近藤武区長、増田政博副区長、  緑川斉福祉保健センター長、安藤敦久福祉保健センター担当部長、  白井一彦土木事務所長、佐久間栄吉戸塚消防署長（災害対策担当部長）  ほか関係職員</p>
議 題	・令和 7 年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算執行計画等
発 言 の 要 旨	<p>中島議員：「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業で実施予定の路線バスデジタルサイネージの発信内容は時期に応じて変更するのか。</p> <p>石和田総務課長：デジタルサイネージで広報する内容は 2 か月ごとに変更している。今年度については、新たな内容が加われば変更を考えるが、現時点では、昨年と同内容で発信を考えている。</p> <p>中島議員：戸塚駅周辺 4 か所の下水道管内の水位情報がリアルタイムで見られる事業が 3 月から始まっている。反響もあったので安全・安心の取組として、下水道水位情報のスマホでの見方を路線バスデジタルサイネージで発信してほしい。</p> <p>石和田総務課長：デジタルサイネージの内容に追加を検討していきたい。</p> <p>中島議員：マンション防災では 18 区の中でも戸塚区がリードし、モデル</p>

的な取組をしているが、マンション防災のガイドブックに関して状況を教えてほしい。

石和田総務課長：マンションの防災活動支援ガイドブックについては、現在作成中のため、その途中経過も含めて、説明させていただきたい。

中島議員：スポーツ・レクリエーション事業について、今年も区内サッカーチームが区民を試合に招待する「とつか区民DAY」がある。区民に非常に喜んでいただけているが、試合に招待するにあたり、今までどのような呼びかけを区民にしてきたのか。

竹内地域振興課長：区公式Xや広報よこはま等で広く周知している。

中島議員：例えば横浜FCと連携しながら小学校へ案内するなど、新しい取組を検討してほしい。東戸塚にサッカーチームの事務所がある状況を積極的に活用し、取り組んではほしい。

また、区の防犯力強化は非常に大事な取組である。その上で上限20万円の地域の防犯力向上緊急補助金について、防犯セキュリティ協会や警備業協会などと連携して進めていくと思うが、状況を教えてほしい。

竹内地域振興課長：地域防犯については地域の関心も高く、緊急補助金を有効に活用していただきたい。4月、5月の区連会で補助金の内容や相談できる窓口について周知した。特に5月は相談窓口になっている警備業協会や防犯セキュリティ協会から、協会として出来ることなどを案内し、各町内会にも1部ずつチラシを配付している。

中島議員：申し込みがあった件数を教えてほしい。

竹内地域振興課長：現時点では戸塚区で申請はない。市全体で6件程度の申し込みがあったと聞いている。10月末の締切に向けて支援していくたい。

中島議員：どのような取組が防犯力強化につながるのか悩む町内会もあると思う。他の町内会の事例などを共有すると取組が広がっていく。せ

っかくの地域防犯力を強化できる補助金であり、期限までに申請数が対象の半分を超えていなければやり直しだと思っている。100%は無理かもしれないが、せめて7～8割は活用してもらえるよう、私も地域をまわりながら促していくので、区としても推進してほしい。区長はどう思うか。

近藤区長：戸塚区の特殊詐欺被害は神奈川県内でも多い。地域の防犯力を高めることは非常に重要なことと考えている。戸塚区としても「犯罪のないまちづくり助成金」を設け、昨年度は38団体に助成した。今回の緊急補助金についても、業界団体と連携しながら、100%を目指し、より多くの自治会町内会に活用していただけるよう、進めていきたい。

中島議員：区内の自治会町内会全てが補助金上限20万円を活用すれば、4,000万円以上の予算が戸塚区にあることになる。それを有効に活用できるかで防犯力は大きく変わってくる。警察にもこの補助金の情報を共有し、アドバイスをもらいながら進めてほしい。

竹内地域振興課長：防犯に関しては警察とも連携して進めている。情報共有をしながら進めていきたい。

中島議員：交通課題箇所である吉田大橋の信号について、日にもよるが、朝7時台後半から8時台前半にかけて、右折車両に起因する渋滞が発生している。ぜひ早めに調査と効果検証を行い、地域課題解決の良い事例としてもらいたい。

山内区政推進課長：長年の課題として認識しており、早期の解決に取り組みたい。今月の調査実施後、速やかに結果を分析し、それを警察に提供していく。その後は警察の所管から県警に上申していく流れになると想定している。途中から警察の手続きになるが長年の課題として認識しているので、例えば時差式信号の実施など具体的な対応につながるように働きかけていきたい。

伏見議員：交通安全対策事業のスクールゾーン対策事業について、路面標示以外の取組事例はあるか。

竹内地域振興課長：以前はスクールゾーン表示は電柱巻きを行っていたが、視認性の観点から路面に大きく描いたほうが見やすいため、路面標示に切り替えている。

伏見議員：以前、京都で自動車の運転手に対して目の錯覚により減速を促す路面標示を見た。横浜市内ではあまり見かけないが、子どもが事故に巻き込まれるケースも多いため、戸塚区でもそういった対策があれば実施してほしい。

白井土木事務所長：自動車の速度抑制の工夫としてはドット線などがあり、戸塚区内でも何か所か実施している。また、歩道が確保出来ない箇所にはグリーンベルト、交差点内にはそこが交差点ということがわかるようなベンガラ色の視覚線などを引いている。先生のおっしゃる視覚的に速度抑制を図るものも栄区などで行っている。戸塚区でも要望があれば試験的に設置する方向で検討したい。

伏見議員：保護者の方は詳しくないのでぜひ区から提案してほしい。

次に、生理の貧困対策事業について、窓口相談に繋げるために生理用品や案内カードで周知するというが、具体的にどういった方法になるのか。

神尾生活支援課長：昨年度、市立戸塚高校との連携をきっかけに、学生のなかに生理の貧困が生じている可能性があることがわかった。まず学校に生理用品と生活困窮者自立支援事業の案内カードを配付することを考えている。

伏見議員：小学校は対象とならないのか。

神尾生活支援課長：市立戸塚高校と区内5中学校を対象にモデル的に配付する予定である。

伏見議員：この5校はどのように選定したのか。

神尾生活支援課長：区内中学校長会で説明のうえ、了解いただいた5校に

決定した。

伏見議員：話しあは逸れるが、生理は女性にとって個人的なものであり、他の人の痛みの程度がわかりにくく、本人としては辛くても我慢しなければならないという状況が続いてきた。生理の酷い人は内膜症や不妊に繋がる可能性があり、早期受診の重要性を啓発する必要がある。枠を超えて困窮の窓口相談でも身体の健康のことをつけ加えて説明してほしい。

神尾生活支援課長：生理用品は基本的に保健室で配付するので、養護教諭を通じて情報共有したい。繰り返し配付を求めるなどの状況があった際は、スクールカウンセラー等からこども家庭支援課を通じて生活支援課の相談支援に繋げたい。また、生理用品と一緒に配布する案内カードに相談用のメールアドレスも記載するので、身体の健康についても合わせて案内できればと考えている。

伏見議員：トップスポーツチーム応援事業について、戸塚区には女子ラグビーチームがあり日本代表選手もいるので応援したいが、県内では試合のできるグラウンドが取りにくいという話がある。そうした中で、区民まつりなどイベントで選手にラグビーの素晴らしさを伝えてもらっている。先日、区役所に来られたと聞いたが、その際に試合のスケジュールなどの情報はもらったのか。

竹内地域振興課長：スケジュールは教えていただいているので、日本代表として活躍するワールドカップや7人制ラグビーの試合予定などを公式Xなどで発信し区民に周知していきたい。ワールドカップの試合はにぎわいスポーツ文化局がパブリックビューイングを予定しているので戸塚区としても企画を検討したい。

伏見議員：3R推進事業の生ごみ削減の推進について、今年も実施予定だが、イベント参加者にその後の使用状況などを確認しているのか。

高橋資源化推進担当課長：小型生ごみ処理機ミニ・キエーロ講習会の受講者には、ミニ・キエーロ配付後、3か月間使用していただき、その記録や困ったことなど御報告いただいている。困りごとがあればミニ・キエーロ

開発者に確認するなどフォローし、行動が継続するよう取り組んでいる。今年度も既に1回行っているので、受講者のフォローをしながら幅広い周知に繋げていきたい。

山浦議員：横浜市消費生活総合センターでは、18区から約2万3,000件の相談があるが、戸塚区の件数や内容を教えてほしい。

竹内地域振興課長：後ほど資料で回答する。

山浦議員：防犯と違い、消費生活相談は基本的に民間同士の問題だが、横浜市はどこまで寄り添えるのか。

竹内地域振興課長：実際に被害があった場合は警察の対応となるが、その前段階で区役所に相談があった場合は、横浜市消費生活総合センター相談窓口の紹介や、戸塚区犯罪・防犯情報メールでの事例周知による注意喚起をすることができる。

山浦議員：来年度、法改正がある共同親権について、こども青少年局又は教育委員会がリーフレットと職員研修用の動画を作成中と聞いているが、区役所にはどこまで情報共有されているのか

鋪こども家庭支援課長：こども青少年局が作成した職員向け研修の動画が5本あり、こども家庭支援課の社会福祉職が学んでいる。時期は未定だが集合研修の予定も聞いており、職員を参加させたい。また、リーフレットは秋頃に制作されると聞いているので手元に届き次第周知したい。

山浦議員：デリケートな問題であり、非常に難しい対応が求められる。親権を持たない親が学校行事の参加を断られている現状がある。そういう相談があった場合には、局と連携し対応出来るようにしてほしい。

また、以前の区づくり推進会議で、住宅地に葬儀場や死体安置所が設置されることについて、法的には合法だが突然設置されるのはいかがなものか、という議論をした記憶がある。多死社会を迎え火葬場が足りないことを受け、ホテルや民泊施設を利用し死体安置をするケースが増え

ている。千葉市や町田市、世田谷区などは安置所を設置するうえでのガイドラインがある。横浜市でもまちづくりの観点から今後、必要ではないかと常任委員会で質問したところ、局長や副市長から検討すると答弁があった。区内で突然葬儀場が出来るといったことが起きたのは事実で、その際は行政として出来ることは少ないと対応だったが、他都市でガイドラインが出来ていることも踏まえ、しっかりと現状を把握し対応していく必要があると思うがどうか。

山内区政推進課長：過去に住民から心配の声があがったことは承知している。区としては、事業者側が地域との関わりをもって住民に説明をしながら計画を進めてほしいという思いはあるが、建築局や健康福祉局とも状況を確認した中では現状で事業者に対して何らかの制限といった対応を求める法的な規制はない。区としては、地域から相談があった際は状況など丁寧に聞き取り、法的な規制がない中でどのような対応が取れるのか、建築局や健康福祉局とも情報共有や連携をしながら対応していくたい。

山浦議員：私もガイドラインを作るよう引き続き局に働きかけたい。

坂本議員：個性ある区づくり推進費の開始時から議論になっているが、どのように区としての個性を出しているのか。戸塚区ならではの事業があれば教えてほしい。

近藤区長：以前から区づくり推進費では、区の個性の打ち出し方やニーズの掴み方が課題となっている。自主企画事業では、事業効果を確認し、アンケート等で区民ニーズを捉えながら、事業の継続、もしくは転換を検討している。自治会町内会連絡調整事業では、自治会町内会長の4割程度が毎年、改選により新任となる状況で、何をすべきかわからぬという声を受け、新たに補助金の相談会を実施するなどで負担の軽減を図っていきたい。区民の声を直接聞きニーズに応えていくことが区の自主企画事業のあるべき姿だと考える。

坂本議員：自主企画事業のあり方について、しっかりと議論しなければいけない時期だと思う。今計上されている事業は再配当予算に組み込む

こととし、戸塚区で特別に行う自主企画事業として外出しすることで区内にわかりやすく予算編成すべきである。市民局を含めて、引き続き問題提起をしていきたい。

また、自治会町内会の加入率が下がっている地域を教えてほしい。

竹内地域振興課長：令和6年4月1日現在で、戸塚区66.7%、横浜市全体で66.7%。経年では減少している。地区連合や町内会毎のデータは手元にない。

坂本議員：以前は8割近かった加入率が下がってきており、自治会町内会のあり方自体も工夫する必要がある。会長も高齢化をしているので、PTAも含めて、より若い人が参画しやすい自治会町内会のあり方を議論してほしい。

次に、横浜市避難ナビの使用方法を解説するチラシの配布について、積極的に行ってほしい。例えば、駅を活用しQRコードを展開するなどデジタル発信の取り組みはしているのか。

石和田総務課長：デジタル発信については区公式X等を活用して周知している。

坂本議員：今は高齢の方もQRコードをしっかりと読み取れる。駅利用者や買い物中の方なども含め、デジタルを感じられる取組を進めてほしい。

また、特殊詐欺について、戸塚区は県内でも被害が多いと聞いているが、どのような状況なのか。

竹内地域振興課長：毎月の区連会で警察から情報提供があるが、被害額が非常に多く、警察も懸念している。

坂本議員：スポーツ振興について、川崎市のバスでは地元の女子バスケットチームの選手が車内アナウンスをしていた。地域に根付いた取組を行う自治体が多い。戸塚区にはトップスポーツチームが多くあるので、より区民が身近に感じるような取組を進めてほしい。

竹内地域振興課長：車内アナウンスは今まで取り組んだことはないが、区の施策等を選手がPRする動画を配信している。車内アナウンスについても可能かどうかも含めて参考にさせていただく。

坂本議員：とつか花できれいなまちづくり事業について、2027国際園芸博覧会に向け、戸塚フラワーロードなど、華やかな道路や遊歩道があると良いと思う。

森土木事務所副所長：現在は戸塚駅、東戸塚駅、踊場駅、舞岡駅の各駅前で活動しているが、事業予算内で地域を広げていくのは難しい。ハマロードサポーターの活動のなかで検討したい。また、東戸塚駅でプランターを増設しているが、そのような取組を更に進めたい。

坂本議員：駅周辺だけではなく、スペースのある場所があれば菜の花ロードなど、他の地域に行かなければ見ることのできない環境を区内に作るなど、積極的に検討していただきたい。

大和田議員：スクールゾーンについて、豊田小学校付近で通学路の拡幅の計画が進んでいるが、進捗状況を知りたい。

森土木事務所副所長：3月の市会での道路局長答弁を受け、小学校に伺い現状の確認を行った。また、区に要望書が出されたことなども踏まえ、歩道整備事業に協力いただけるよう地権者と交渉中であり、着実に進めて行きたい。

坂本議員：ゆるやかな見守りの協力事業者は、新聞配達店や郵便局などがあると思うが、他にどういった協力事業者があるのか。

藤田高齢・障害支援課長：新聞販売店や宅配事業者、コンビニエンスストアなどがあり、4月30日現在で364事業者に登録いただいている。

坂本議員：事業者毎の通報件数一覧はあるのか。

藤田高齢・障害支援課長：通報者別件数だが、協力事業者・協力機関と

といった分類ごとの件数は整理している。

坂本議員：事業者での分類以外にも、相談内容で分類された一覧があればほしい。

藤田高齢・障害支援課長：協力事業者や協力機関、協力ボランティア団体ごとの一覧はお渡しできるが、相談内容の分類の整理はしていない。

中島議員：60歳の方が新聞販売店からの通報で助かったという素晴らしい事例があるが、この他にも事例があれば教えてほしい。

藤田高齢・障害支援課長：雨戸が2、3日閉まったままで心配だという通報で現地確認を行い、安否を確認した例がある。

中島議員：個人情報の問題もあるが、協力したことによって命が助かったという事例を積極的に伝えてほしい。

また、介護サービスについて、80代の方から介護保険を受けたいという相談があった。これまで受けていなかった人が介護保険を受けることで見守りが続いている。80歳以上で介護保険を受けていない人が区内にどのくらいいるのか、割合も含め、資料がほしい。

藤田高齢・障害支援課長：情報として出せるのか、どのような形になるのか、も含めて確認し、お示ししたい。

山浦議員：戸塚区には民生委員の方々の声がどのように届いていて、どのように考えているのか。

尾崎福祉保健課長：今年は12月に民生委員の一斉改選を行う年であり、各地域の自治会町内会の皆様に新しい委員の推薦をお願いしている。自治会町内会向けに推薦をいただくための説明会を実施したが、なり手がないという声がある。また、高齢化が進む中で、民生委員の活動に誇りを感じるが、受け持つ件数の増加が負担となっているという声を聞く。

	<p>山浦議員：戸塚区の民生委員の人数について、3年間の推移を資料でほしい。</p> <p>尾崎福祉保健課長：整理して提出する。</p> <p>伏見議員：様々な協力事業者がいるなかで、例えば宅配業者であれば在宅か不在かわかるが、新聞配達の場合は新聞を届けるだけになる。協力事業者から積極的に声掛けをすることは可能か。</p> <p>藤田高齢・障害支援課長：協力事業者には出来る範囲で行っていただいている。例えば毎日配達する場面で2日連続で不在などの場合に配達員からお声掛けいただくことはあるが、あくまで可能な範囲でご協力いただいている。</p> <p>伏見議員：協力事業者と連携をしながらゆるやかな見守りを進めてほしい。</p>
備 考	